

『当番活動』

育てたい力

- ・生活に見通しをもって自分から進んで行動する力
- ・自分たちで生活の流れを作り出す力

経験させたい内容

- ・卒園を意識して、自分たちで見通しをもって生活する。
- ・当番の引継ぎをスムーズに進めて行くための方法を考えたり、工夫したりする。

5歳児1月 事例

〔クラスの実態〕

男児12名・女児14名、計26名のクラス。生活や活動に見通しがつくようになり、友達同士で相談したり、工夫をしたりして生活をしている。また、就学児健診を終え、卒園や就学への期待がより高まり、生活にも意欲的である半面、就学への不安も混在する幼児もいる。

〔活動の流れ〕

3クラス（3～5歳児）の昼寝用の布団を、毎日1グループ6名の布団敷き当番が給食前の時間を利用して、給食に間に合うように敷いている。卒園する前に布団敷き当番を4歳児に引継ぎを知り、教えることを喜び張り切っている。引継ぎの中でどんな事を伝えていったらよいか、ポイントは何か、クラスで話し合いの場をもった。

〔指導や環境の工夫〕

- ・当番活動に見通しをもちながら一人一人が進んで行動できるような、言葉かけをしていく。
- ・保育者が子供たちと相談しながら、分かりやすいように、一日の流れをボードに示したり、時間的な感覚が養われるよう時計を意識させたりしていく。

〔エピソード〕『ここがポイント』

【記録前の様子】 1週間後の布団敷きの引継ぎ会で、クラスで話し合ったことを思い出し、どうやったら分かりやすく伝えることができるか、考えながら布団敷き当番をやってみようと、保育者が言葉かけをして始める。

『ここがポイント』 A児とB児が、二人一組でゴザを敷き始める。A児「1枚目のゴザは、ここの線に合わせて敷くんだよね」、B児「そうそう、ここがポイントだよね、じゃないとゴザが全部敷けないんだよね」と、ゴザの端を床の目印に合わせて敷く。C児「Bちゃんこっち来て手伝って」と、二人で2枚目のゴザを敷き始める。A児「DちゃんEちゃん、〇〇組のお休みが誰だか聞いてきて」と声をかけると、D児とE児は3、4歳児クラスのお休みの子供を聞きに行った。

B児が「Fちゃん〇〇組さんの（3歳児クラス）布団から敷こう」と、広げたゴザの上に布団を敷き始める。C児は「順番に布団をつめて敷くのがポイントだよね」と、布団を揃えて敷いている。すると、お休みの子供を聞きに行き戻って来たD児が「〇〇ちゃんがお休みだよ」、E児「〇〇ちゃんの布団どこ？」と、敷いてある布団の中から見付けて片付けた。全クラスの布団を敷き終わると、「最後に布団がちゃんと揃っているか見るのもポイントだよね」と、C児の声に他の子供たちも布団を見渡す。「まにあった!」と、みんなで時計を見て部屋に戻る。

【その後】 布団敷きの引継ぎの日は、4歳児を呼びに行き、会の流れ、進行を自分たちで考え進めた。ゴザの敷き方、布団の敷き方、お休みの子供の確認の仕方など、当番の仕方を分担して実際にやって見せながら、丁寧に伝えることができた。

予想される活動例

- ・うさぎ当番の引継ぎ
- ・大掃除
- ・修了記念制作
- ・お別れ会

〔小学校への学び〕

- ・生活に見通しをもって行動できることが、意欲的に学校生活を送っていける基礎となっていく。